



「五感」呼び起こす農業

リポーター 小畑公悦 (上四羽出)

と農業の将来について青年部長の小畑君さんに伺いました。
▽交流会はいつから？
「人と食と農との出会い」をテーマに今年で三年目です。去年までは新鮮な野菜を販売するだけでしたが、今回は、消費者と生産者の距離をもっと縮めたいということで、タマネギの収穫

今回は、消費者とのタマネギ収穫交流会を開催したJA大館市青年部を通してこれからの農業について取材した小畑リポーター、福祉バンク大館の取材から在宅福祉サービスについて考えた瓜田リポーター、お二人のリポートをご紹介します。

米価の実質的な引き下げや後継者の不足など、農業を活性化していく上で解決すべき課題が山積していま

す。また、食べ物に対する消費者の関心が高まり、安全な物を安く供給していくことが求められています。こうした中、消費者に見える農業をと、JA大館市青年部が「消費者とタマネギの収穫交流会」を開きました。

▽農業の将来は？

農業は、お金の換算できない

を体験してもらいました。
▽盛況だったようです。
有機栽培や低農薬野菜といった安全性の高い食料が求められています。今回は「生産者の顔が見える農畜産物」という点で消費者に安心感をもってもらえたと思います。また、大館も都市化が進み、農作業を手伝う機会が減りましたし、野菜がどう育つのかを知らない子供も増えてきていますから、交流会を通して自然への認識を深めてもらえたと思っています。



左が小畑リポーター

の世話②洗濯③外出時の介助④
協力は、サービスを受ける利用会員、ヘルパーの役割を担う協会員、賛助会員に分かれています。このうち協会員は九十八人ですが、平均年齢は五十九歳と高齢化が進んでおり、若い人の参加が望まれています。サービスの主な内容は①食事

現在の悩みは、利用会員が少

ないこと。潜在的な利用希望者

ボランティアとの出会い

リポーター 瓜田輝子 (獅子ヶ森)

交流会に参加した家族が楽しく作業をしている姿を見て、私

もゆとりある農業を目指している

住民参加型の在宅福祉サービスとはどんなものだろうかと考え「福祉バンク大館」を取材しました。

代筆や朗読などで、原則として一回二時間程度になっています



右が瓜田リポーター

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載しています。